

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	マザーズ森田		
○保護者評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年2月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名 (うち2名兄弟で利用)	(回答者数) 26名
○従業員評価実施期間	2026年1月14日		～ 2026年1月14日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・法令遵守の徹底が意識付けできている。	・月初の国保連請求時には、法人内の他教室社員がチェックをして請求送信をしている。 ・毎朝の勉強会の励行。 ・毎週始めに全教室合同の全体会議を行っている。その全体会議に社長も参加している。	・月初の請求確認や、入力作業がもれなく確実に、より簡潔に実施できるようにDX化を進めていく。
2	・他事業所との合同イベントがあり、支援に満足できている保護者がいる。	・活動内容を事前に保護者や児童に連絡できている。また、送迎時や、連絡帳アプリを活用し当日の様子も保護者と共有できている。	・合同イベントの回数を増やしていき、地域交流の機会を増やしていく。
3	・連絡帳アプリでの返信が早く、保護者と情報共有が密にとれている。	・社員が連絡帳アプリをこまめに確認しており、内容や返信内容も社員間で情報共有できている。	・保護者からの連絡をもれなく確認するため、連絡帳アプリを確認する時間帯を決めておく。 ・連絡帳アプリの通知機能向上。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・他の事業所の子どもと関わる機会が少ない。 ・地域の子どもの交流が少ない。	・マザーズ主催の運動会はあるが、参加した子ども同士の交流はほとんどない。	・利用している児童のきょうだいも参加できる活動やイベントを新たに設ける。 ・事業所交流の機会を二月から三月に1回実施していく。
2	・迎えに来た保護者が、子どもが事業所内でなにをしているのか分からない。また避難訓練を実施しているが、保護者への浸透ができていない。	・事業所の構造。 ・送迎時での申し送りでしか様子が分からない。	・保育参観ができる期間を設ける。 ・連絡帳アプリにて、活動の様子画像を送る機会を増やしていく。
3	・スタッフの人数が分からないという意見があり、事業所の透明性が確保できていない。	・人員配置の特性上、どうしても応援の社員がいたり、当該事業所社員が他教室に応援に行く場合がある。	・スタッフの顔写真を出しておく。写真の無いスタッフはイラストを出す等をして、迎えに来た保護者に安心感を持ってもらう。